

令和元年度 第2回 平塚市図書館協議会 会議記録（要旨）【公開用】

開催日時	令和元年10月17日（木）14時00分～15時30分
開催場所	平塚市中央図書館3階ホール
出席者	委員 竹之内 禎 会長 小林 利幸 副会長 鈴木 由美子 委員 跡部 左恵 委員 久保田 幸子 委員 事務局 高橋 社会教育部長 小林 中央図書館長 渡辺 北図書館長 上村 西図書館長 勝山 南図書館長 菊坂 奉仕担当長 高橋 管理担当長 杉山 管理担当主査 田畑 奉仕担当主査 平原 奉仕担当主査 高島 管理担当主任
欠席者	掬川 舞子 委員
傍聴人	5 名

議 事

（1）今期テーマ「図書館の運営体制の検討」について

ア 民間活力の活用に向けた進捗状況

事務局から説明を行った。

令和2年度から導入開始予定である中央図書館の窓口業務委託については、事業者の選定準備に着手している。選定方法としては公募型プロポーザル方式によって行う。公募型プロポーザル方式による選定を行うにあたり、実施方針、実施要領、審査要領の策定をした。また、予算に関しては、9月議会で補正予算を提出し、議決された。

今後は、公告により提案書を受け、プレゼンテーションを提案書の内容と合わせて審査委員会で事業者を選定する。

イ 図書館アンケート調査について

事務局から説明を行った。

昨年度までの検討を受けて、今年度は図書館の全体の在り方に係る2種類のアンケート調査（郵送調査と来館者調査）を実施した。

郵送調査は、住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の平塚市在住の方を対象として実施。男女合わせて350人に調査票を郵送し、返信用封筒により92通（回収率26.2%）を回収した。

来館者調査は、金曜日と土曜日の2日間、地区館も含めた各図書館で来館者に調査票を配布し、計926通を回収した。

回収した調査票は10月までに集計を完了する予定。その後、結果を基に分析を行い、11月中に図書館全体の在り方についての方針案を作成する。作成した方針案は、12月を目安に各委員へ郵送にて、意見をいただきたいと考えている。

ウ 移動図書館業務の在り方の進捗状況

事務局から説明を行った。

移動図書館業務の在り方については、「ステーション」、「車両」、「資料提供方法」、「他課との連携」、「郵送サービス」、「電子図書館」、「県内公共図書館の調査」の7つの項目について検討を行っている。具体的にはステーションの統廃合、既存のマイクロバス型の車両からの小型化、車両以外の方法による資料の提供、おはなし会や映画会の出前サービス、地区公民館等で予約資料の受け取りができ

	る窓口の設置等を検討している。
【 会 長 】	事務局の説明について、質問やもう一度詳しい説明がほしい部分があれば発言をお願いしたい。
【 委 員 】	金目小学校は、図書館から遠い場所に位置しており、子どもたちは低学年を中心に、移動図書館が来るのを楽しみにしている。移動図書館のステーションの統廃合を検討しているとのことだが、市内の図書館から離れた学校の子どもたちは移動図書館を楽しみにしているという現実もあるため、統廃合の検討についてはその点も考慮していただきたい。
【 委 員 】	港小学校で読み語りボランティアを行っているが、港地区は近くに南図書館があるので不便なく図書館を利用できる。しかし、各中学校区子ども読書活動推進協議会で他の中学校区の話を知ると、図書館が近くにない地区の方だと、移動図書館を活用しているという例もある。その方々からすると移動図書館がなくなると困るという意見もあるので、移動図書館は続けていただきたいと考える。
【 委 員 】	先週に開催された各中学校区子ども読書活動推進協議会代表者会議でも、移動図書館が訪問している場所と訪問していない場所があるのは何故なのか話題に挙がった。コストや時間的な面もあるのかもしれないが、「図書館が車で来る」という空間が、学校の図書室とまた違う魅力となっていると思うし、より多くの小学校に訪問してほしいという意見があったので、事業を縮小せずに運用してほしい。
【 委 員 】	幸いにも近くに図書館がある地域に住んでいるので、ボランティア活動で使用する本を選ぶ際にも苦労はないが、図書館が近くにない地域に住んでいる中学校区のボランティアの話を知ると本選びに苦労しているようだ。絵本は購入するとなると高額なので、図書館の本を気軽に借りられるというのはボランティアの方が活動を長く続けられる要素だと思う。
【 副 会 長 】	移動図書館業務の在り方の進捗状況の検討項目「ステーション」の中で移動図書館の資料1点の貸出にかかるコストを最小・最大で算出しているが、移動図書館だけでなく中央図書館及び地区図書館のコストも算出してもらえると比較しやすい。また、検討項目「他課との連携」の中で土屋公民館の図書コーナーへの支援とあるが、具体的にどのような支援なのかご説明いただきたい。
【 事 務 局 】	移動図書館と各図書館との貸出コスト比較については次回までの課題とさせてもらいたい。 土屋公民館の図書コーナーへの支援については、10年ほど本の入れ替えがなかったので、図書館からの本の寄贈、古くなった本の除籍等により蔵書構成の面で支援を行ったほか、出前図書館等による資料提供の面でも支援を行った。
【 会 長 】	現在はアンケートを実施した段階だと思うが、これから移動図書館を含めた今後の在り方の方向性を決めていく中で、市民の意見を具体的に聞く機会というのは必要だと思う。図書館の在り方の決定に際して、市民の意見を聴く予定はあるか。
【 副 会 長 】	今回実施された図書館の全体の在り方に係るアンケート調査では、普段図書館を利用されない方も対象とした無作為抽出による郵送調査及び利用者を対象とした来館者調査の2種類を実施したことは良いことだと思う。ただ、アン

	<p>ケートの期間も短く、回答者数も少ないので、限定された方からの意見でしかない印象を受ける。今後の平塚市図書館の在り方を決定する際には、もっと広く市民の意見を聴く機会を設けてもらいたい。以前県立図書館でも、県立図書館の在り方を検討したが、その際にも県内計4カ所で県民の意見を聴くための意見交換会を実施している。県内の近隣市町村の公立図書館においても、年に何回か住民の意見を聴く機会を設けている図書館もあるので参考にさせていただきたい。</p>
【事務局】	<p>ご指摘のとおり、アンケート調査においては、対象や回答者数も少ないかもしれない。平塚市図書館の在り方を決定するに際し、市民の意見を聴く機会を設けることについては、スケジュールの調整も含め、再検討したい。</p>
【会長】	<p>平塚市図書館の在り方の決定に際し、市民の意見を聴くということは、ぜひ検討していただきたい。</p> <p>移動図書館についてだが、移動図書館を廃止したことで問題となった事例がある。秦野市では、移動図書館の存続または復活を求める決議が出されているようだ。議会に十分な説明をしないまま移動図書館の廃止を市が決めてしまい、市民の代表者が集う議会を軽視していると問題となったとのことである。そのような事例もあるので、丁寧な説明をしながら進めてもらいたい。</p>
【委員】	<p>今回実施されたアンケートの調査票をみると、移動図書館の存続に係る項目がない。また、実施されたアンケートも無作為抽出による郵送調査と来館者調査の2種類ということであるが、移動図書館の利用者に対してアンケートは実施しないのか。</p>
【事務局】	<p>移動図書館の利用者に対しては昨年の秋にアンケートを実施している。</p>
【会長】	<p>移動図書館の利用者の立場からすれば存続については重要になってくるので、利用者の声についても十分留意していただきたい。</p>
【委員】	<p>身近に図書館がある地域に住んでいる方は、移動図書館は必要ないと答えるかもしれないが、移動図書館しか借りる術がない方からすれば移動図書館の存在は重要だと思う。</p>
【委員】	<p>このようにアンケートをとることは、図書館利用者は図書館に何を必要としており、利用されていない方についてはなぜ図書館を利用しないか見えてくると思うので、より多くの人々の声を聴いてほしい。</p> <p>また、多くの方が本にふれる機会を作ってほしい。例えば、「移動図書館業務の在り方の進捗状況」の中で挙げられている「障がい者への郵送サービス」はとても良いと思う。さらに、館内でも、障がいをお持ちの方が気軽に本にふられるコーナーやスペースに配慮を考慮を考えていければさらに良いと思う。</p>
【事務局】	<p>ここまで出された意見についてはぜひ参考としたい。移動図書館の意見が多く出されたが、地区図書館も含めた4館の平塚市図書館全体的な運営体制等についても、この後意見をいただければと思う。</p>
【会長】	<p>「図書館の運営体制の検討」については市民の関心も高い案件となるので、引き続き分かりやすい説明を事務局にお願いしたい。</p>

(2) 平塚市子ども読書活動推進計画（第4次）策定について

事務局から資料の説明を行った。

前回の図書館協議会で「平塚市子ども読書活動推進計画（第4次）」のたたき台について説明し、その後2回にわたり意見をいただき、素案たたき台の最終版を作成した。素案たたき台作

成にあたっては、市の各課協力のもと、外部委員の意見を反映するため、子ども読書活動関係者を含む委員で構成される「子ども読書活動推進懇話会」を置き、策定作業を進めてきた。

前回のたたき台からの変更点としては、基本方針を「子どもが読書に親しむ機会と環境の充実」と「ボランティア支援と子ども読書活動の啓発の促進」の2つに整理し、6つの重点取組との繋がりを明確にした。6つの重点取組ごとに該当する全45の事業（新規事業6つ）を推進し、基本理念である「いつでも どこでも 読書を楽しみ いきいきと学ぶ 子ども読書のまち」の実現を目指す。

今後の予定としては、市長等への説明を経て11月中旬に素案として整え、12月6日（金）から1月5日（日）までパブリックコメントを実施。その後、パブリックコメントの実施結果をまとめ公表し、素案へと反映する。2月下旬に計画を完成し、2月下旬から3月にホームページ等で公開する見込み。第3回図書館協議会でも報告したい。

【 会 長 】 事務局の説明について、質問やもう一度詳しい説明がほしい部分があれば発言をお願いしたい。

【 副 会 長 】 主な構成事業の中で「14 学校司書の新任者研修（たたき台資料27ページ）」とある。これは必要なことだと思うが、講師は図書館司書の資格を持った方をお願いするのか。

【 事 務 局 】 講師は中央図書館の職員が行う。

【 副 会 長 】 「44 子ども読書の日の啓発（たたき台資料41ページ）」は継続事業とのことだが、具体的に啓発の効果を何か検証しているか。

【 事 務 局 】 これまでは、例えば参加した子どもたちに感想等をもらって展示し、参加者が他の方に本を紹介してもらうことにつなげていくことを狙いとしたイベントを実施してきた。参加人数はプレゼントの配付数等で把握できるが、どの程度の効果があったかを検証するのは、今後の課題である。

【 副 会 長 】 神奈川県でも啓発のためのフォーラムを毎年実施しているが、効果確認についてはその都度課題となっている。

【 委 員 】 事業の中に「39 学校や関係機関などとの協力強化（たたき台資料37ページ）」とある。図書ボランティアとして小学校で活動を行っているが、学校との連携や意思疎通ができていないと感ずることがある。

平塚市ではブックスタート等による幼児の読書環境が整っていると思うが、小学生になると本から離れてしまう現実がある。学校の担任教師が本好きであれば、例えば教室の中に学級文庫を置く等、子どもが本とふれあう機会をつくってもらえるが、そういったことがなければ途端に本から離れてしまう。月に1回の読み聞かせボランティアをしているが、学校との連携やコミュニケーションをもっと取りたいと思うことがある。平塚市で子ども読書の推進をしているが、ボランティアと学校が話し合える場がもっとあると良いと思う。学校側の都合があるのも理解はしているが、例えば、読み聞かせの時間がどのくらいとれるのか、急に短縮される場合もあるので、ボランティアと学校でコミュニケーションの場があればボランティアはもっと積極的に活動できると思う。

【 委 員 】 学校としてもボランティアの方の意見は参考としたい。

ボランティアさんによる読み聞かせの様子を見ると、子どもたちは高学年・低学年関係なく、とても良い表情をしており、学校側としても、大変有効な時間だと捉えている。ボランティアの方との直接的な意見交換は日頃からできればと思っているが、時間をとってゆっくり話す機会が少ないのは申し訳なく思

	う部分もあるので、学校側からもボランティアさんに向けて要望や取組みを説明できる場が増えれば良いと思う。
【 委 員 】	ボランティア側としては、学校とコミュニケーションを取れる場が少ないので、お互いが疑心暗鬼になってしまうこともある。自身の子どもが学校に通っている間は学校側の事情も伝わってくるが、子どもが卒業しているボランティアが多いので、年に1回は学校とボランティアが話し合える場があれば良いと思う。
【 会 長 】	この事業について担当課は教育指導課となっているが、事務局としてはどのように考えているか。
【 事 務 局 】	教育指導課には事務局から伝えていく。また、ボランティアの担当課は中央図書館なので、校長等と調整して進めていきたい。
【 委 員 】	私の方からも校長会等で伝えていきたい。 学校とボランティアの話し合いの時間は大切にしていきたいし、市や事務局にも関わってもらいたいと思う。計画の事業の中にボランティアの方の人材協力等の支援の取組みもあるのは心強い。 一方で、新規のボランティアの方が増えないという課題もあるが、ボランティアをやってみたいと思っている方は多くいると思う。学校側でも読み聞かせの際の子どもたちの様子を伝えつつ、気軽に読み聞かせに参加してもらえることを伝えていきたい。また、計画の事業の中にボランティアをやってみたい方も支援する取組みがあることは学校側としても心強いと思う。
【 委 員 】	子ども読書活動推進のための主な方策の中で「家庭での読書の習慣づけの重要性の理解促進（たたき台資料6ページ）」が挙げられている。 家庭の中で本にふれられない親を持つ小学生たちは、図書館で本を借りるという行為に対する意識が低く、もっと前から子どもたちが本にふれあえる方策が必要であると前回の第3次計画から課題となっていた。その中で妊婦の方に本とふれあってもらおうという話もあった。 親が忙しく子どもに本を読んであげられない家庭では、例えば祖父母が代わりに本を読んであげることで孫が本を好きになるきっかけとなるという意識を持ってもらう等、親以外にも伝えていけないか。 また、「妊産婦へ向けた読書活動の啓発（たたき台資料17ページ）」の取組みは第3次計画から継続しているが、実際に妊婦の方々がどれほど本を手にとっているか不明な点があるので、医療機関に本を置いてもらうことを市がバックアップできないかと考える。例えば、医療機関などヘリサイクル本を市から提供する等の方法はないか。妊婦の方が絵本を読んで良かったと思えば、産んだ後も子どもに絵本を読んであげたくなると思うだろうし、本を読むという意識を伝えられればと思う。また、本を買わなくても図書館に行けば沢山借りることができるので、そういった手段を妊婦の方に伝えられないか。第3次計画から第4次計画に移行する中で、実際にどの程度、妊婦の方に啓発できたかについても知りたいところではある。
【 事 務 局 】	妊産婦向けの啓発として保健センターで開催している「母親父親教室」があり、その中で図書館職員による読み聞かせを行いたいという打診をしたが、プログラムに余裕がなく、読み聞かせをするための時間がないとのことだった。「母親父親教室」の場に、絵本を置いたり、ブックスタートやおはなし会

	<p>など読書の啓発のためのチラシを置くことについては了承を得られたので、引き続き啓発については力をいれていきたい。効果については、今後の課題とさせていただきます。また、重点取組のひとつである「地域における子ども読書活動の推進（たたき台資料2 1ページ）」の主な課題として「病院などでの読書関連事業の実施状況の把握」を挙げている。病院等、各地域でどのような読書活動が実施されているのか図書館側が把握できていないので、まずは地域の様子を把握し、どのような連携ができるか検討していきたいと考えている。</p>
【 委 員 】	<p>赤ちゃんのときに家族に読んでもらったという経験はとても重要だと思うので、健康診査の場で読み聞かせを実施する（たたき台資料1 9ページ）という取組みはとても良いと思う。待ち時間のちょっとしたひとときでもいいので、大人も本を楽しみながら読み語りで赤ちゃんとふれあい、それから自分が読み語りをやってみたいという気持ちを持ってもらうことにつながってほしい。また、絵本は大人が楽しめる、癒されるものもたくさんあるので、大人に絵本の楽しさを知ってもらう機会、赤ちゃんとふれあうときに読んであげる楽しさを伝える機会を設けることは重要だと思う。</p>
<p>（3）委員からの提案</p>	
<p>委員から自由な提案・意見を求めた。</p> <p>会長からは、「自慢できるお役立ち図書館」をテーマとして、他の公立図書館で実施している暮らしに役立つテーマ別コーナーや防災・防犯についての事例、企業との連携例等の紹介がされた。また、オリンピック・パラリンピックに関連したイベントや絵本交換コーナー、各地区館での見学会・協議会開催、障がい者支援の活動、他の公立図書館で実施されている大学受験・就職活動対策のための事業の検討等の提案があった。</p>	
【 委 員 】	<p>中央図書館の3階に学生が学習できるスペースがあり、多くの方が利用しているようである。会長の提案の中にもあったが、例えば大学受験に関するコーナーを設ける等、高校生に図書館を利用してもらう事業は有意義であると思う。親としても予備校に行かなくても勉強できる場所があるのは有難く思う。</p>
【 会 長 】	<p>学習参考書は利用者同士で取り合いになってしまうため、図書館には置かないことになっているが、勉強できる場所があることは良いと思う。</p>
【 委 員 】	<p>小論文対策や進路について本を読むのは良いことであり、図書館はそういった本の宝庫であると思う。ただ、本離れが進んでいるため、本の探し方や調べ方が分からない子もいるようである。そのような高校生等に向けた本の選び方についての事業も検討できれば良いと思う。</p>
【 副 会 長 】	<p>県立図書館では、大学受験に限らず、調べ方の基本を丁寧に解説する講座や高齢者向けの学び直したための講座もある。様々なニーズに応える講座があれば、本とのふれあいにつながっていくと思う。</p>
【 委 員 】	<p>読書ネットで発行している情報誌「LINK」の記事に各地区図書館の特色等載せる企画があり、先日取材してきた。実際に行ってみると、中央図書館とは違う雰囲気や各地区図書館それぞれで感じた。本が好きな人の中には図書館独特の雰囲気が好きだという人もいると思うが、地区図書館毎に雰囲気や地域の特徴があり、行ってみたら面白さを感じてもらえると思う。</p> <p>会長の提案の中にもあったが、協議会でも地区図書館へ見学に行きたい。そこで新しいアイディアも出てくるのではないかなと思う。</p>
【 会 長 】	<p>事務局にはこの場で出た意見を参考としてもらいたい。</p>

【事務局】 先ほど委員から高校生についての意見が出たが、市の管轄である小中学校とは違い、高校や私立幼稚園については図書館で情報を持っていない現実がある。その点については第4次計画でも課題としているので、今後は現状を把握しながら、図書館の利用につなげる方策を考えていきたい。

(4) 今後の予定

・第3回平塚市図書館協議会

令和2年2月を予定。

令和元年12月、各委員に日程調整の連絡をする予定。

閉会